

体育会学生の就職活動状況調査（2021年4月）

2021年4月

情報解禁から1か月が過ぎ、進路を決定する学生が増えてくる時期の調査結果になります。今回は『インターンシップ』の状況を振り返りながら、学生がどのような思考で企業選びをするのか調査しています。

【調査概要】

調査対象：『アスプラ 2022』に登録している体育会学生

回答件数：315件

調査方法：インターネット、LINE

調査期間：2021年4月2日~4月10日

【TOPICS】

▼インターンシップ参加実績

インターンシップに一度も参加していない学生は全体の20.3%いることが分かった。またインターンシップの形式別参加率については、オンラインでの参加が76.2%、対面型での参加が46.7%となった。この2つの形式を比較すると、29.5ポイントの差が生じている。

▼インターンシップに参加する企業の選び方について

圧倒的に多いのは【志望している業界だったから】という回答となった。しかし2番目に多い【インターンシップ内容に興味を持てたから】という回答に着目すると、学生が目的意識を持って企業を選択しインターンシップに参加しているということが分かる。

<本資料について>

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。

資料のご利用やご質問等に関しては、下記までご連絡ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社アスリートプランニング 広報担当

Tel: 03-5937-8460（受付時間：9:00~18:00/土日祝日を除く）

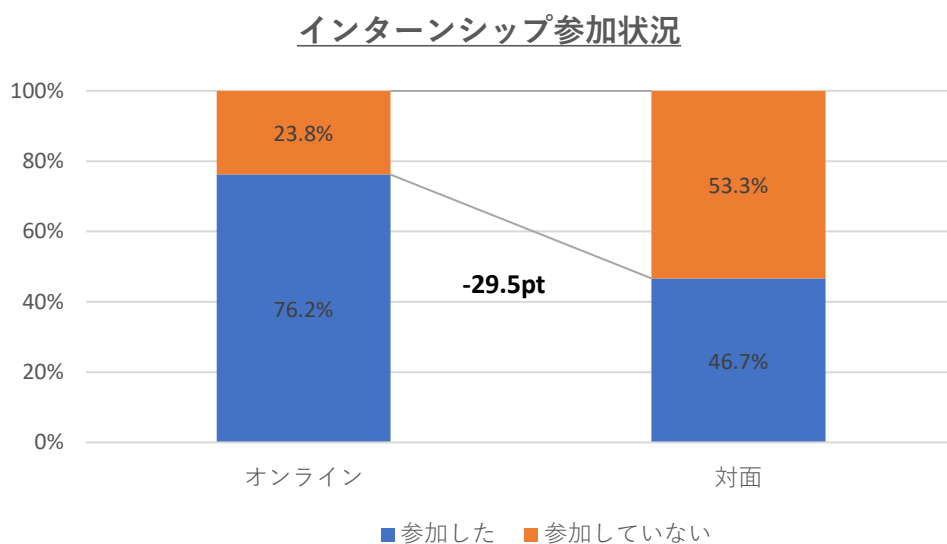
Mail: athlete2022@asupura.com

◆インターンシップについて

○インターンシップ参加状況

インターンシップ参加状況は、オンラインでの参加が 76.2%、対面型での参加が 46.7%と、29.5 ポイントの差が生じる結果になった。

従来のインターンシップは企業に足を運ぶこともあり、オフィスやそこで働く人から醸し出される「雰囲気」を肌で感じやすいというメリットがあったが、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、そのメリットを享受できなかった学生も多く存在する。今後、インターンシップのオンライン化が加速していくと予測される中で、対面と比較すると見劣りしがちな「雰囲気」を、いかにオンラインで伝えていくのかの工夫が重要になるとと思われる。



【全体/n = 315】

図 1

○インターンシップ参加実績の内訳

また、オンラインか対面かの形式別に参加の有無を確認すると、どちらにも参加している学生が全体の 43.2%、オンラインもしくは対面どちらかには参加している学生が 36.5%、どちらにも参加していない学生は 20.3%という結果となった。

近年、インターンシップに参加する学生が増えているものの 20.3%はインターンシップに一度も参加していないことが分かった。

インターンシップ参加実績

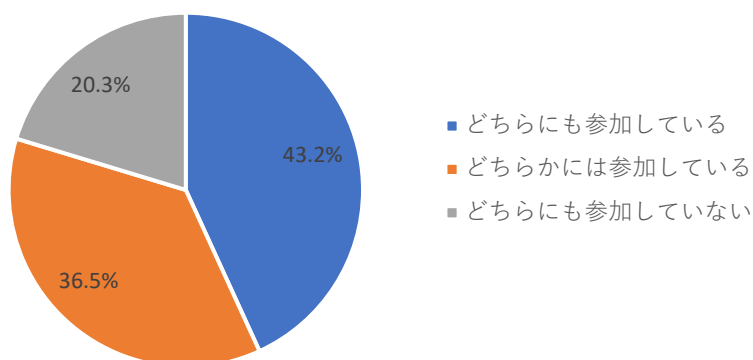
		オンライン	
		参加した	参加していない
対面	参加した	136 (43.2%)	11 (3.5%)
	参加していない	104 (33.0%)	64 (20.3%)

【全体/ n = 315】

図 2

インターンシップ参加状況

オンライン/対面

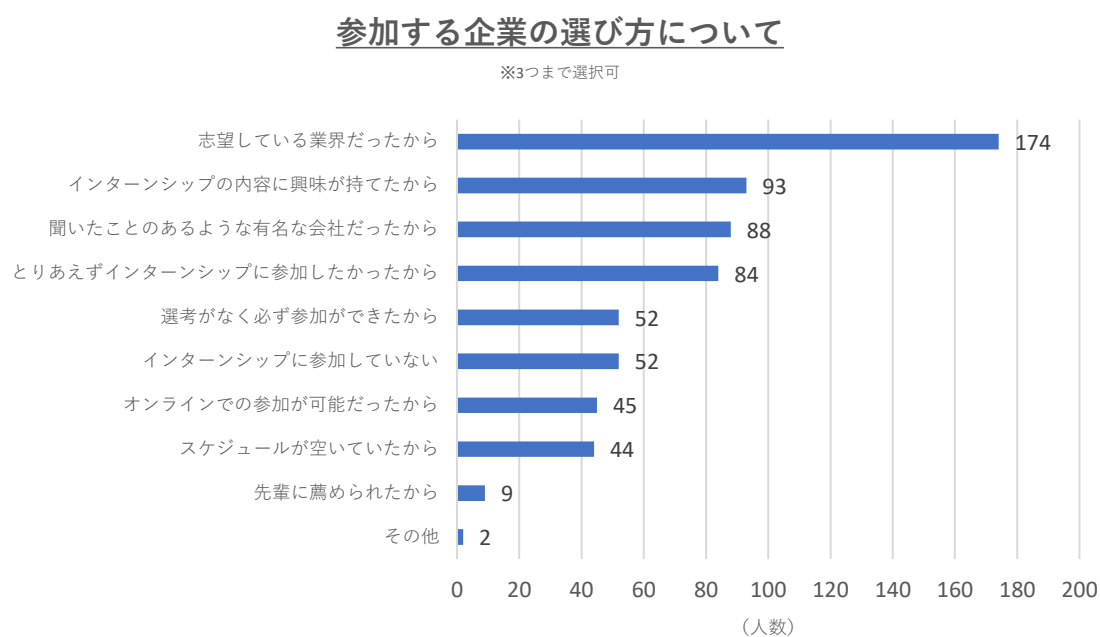


【全体/ n = 315】

図 3

○参加する企業の選び方について

圧倒的に多いのは【志望している業界だったから】という回答だが、ここでは2番目に多い【インターンシップ内容に興味を持てたから】という回答に着目したい。これは学生が目的意識を持って企業を選択し、インターンシップに参加しているということが分かる。インターンシップの参加率を上げる為には、どのようなコンテンツ内容を実施するかと、その見せ方でいかに魅力付けができるかが重要になってくると言える。



【全体/ n = 643】

図 4

○就職活動をする上で役に立ったコンテンツについて

【会社説明】が最も多く、体育会学生については事前に企業研究をすることが難しく参加したタイミングで企業を理解しているということがわかる。

また、一方的に話を聞くだけでなく【グループワーク】や【先輩社員への質問会】を通して、自分が抱えている疑問等を解消していることも予測される。

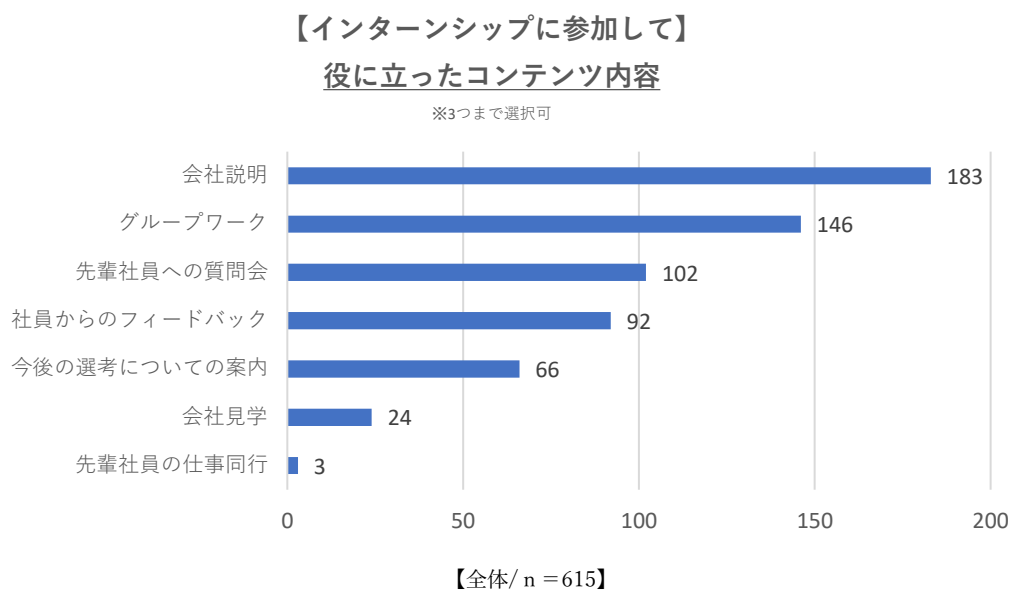


図 5

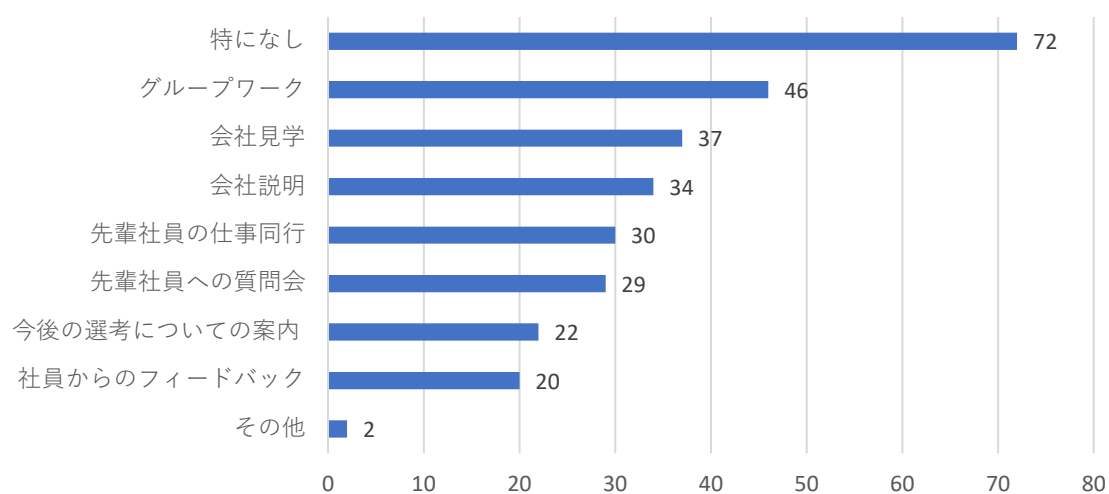
○就職活動をする上で役に立たなかったコンテンツ

最も多かったのは【特になし】という回答で、参加した学生についてはインターンシップから得られるものが多かったということがわかる。

2番目に多い【グループワーク】については先述した『役にたったコンテンツ』においても2番目に多かったことから、グループワークの内容によって学生から評価が大きく分かれることがわかる。

**【インターンシップに参加して】
役に立たなかったコンテンツ内容**

※3つまで選択可



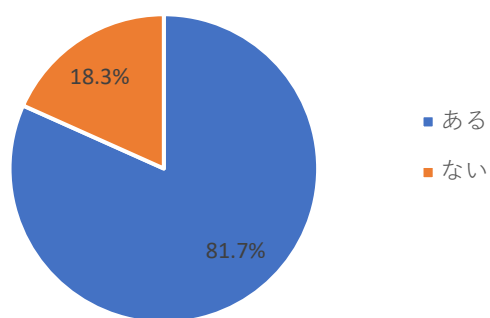
【全体/n = 292】

図 6

○インターンシップ参加後から本選考に進んだ企業について

インターンシップには参加したが、その後同企業の本選考を受けていない学生が 18.3% いる。募集ページに書かれた実施内容を見てイメージしていたことと、実インターンシップの内容に大きな乖離があることが予想される。

インターンシップ参加後から本選考に進んだ企業



【全体/ n = 240】

図 7

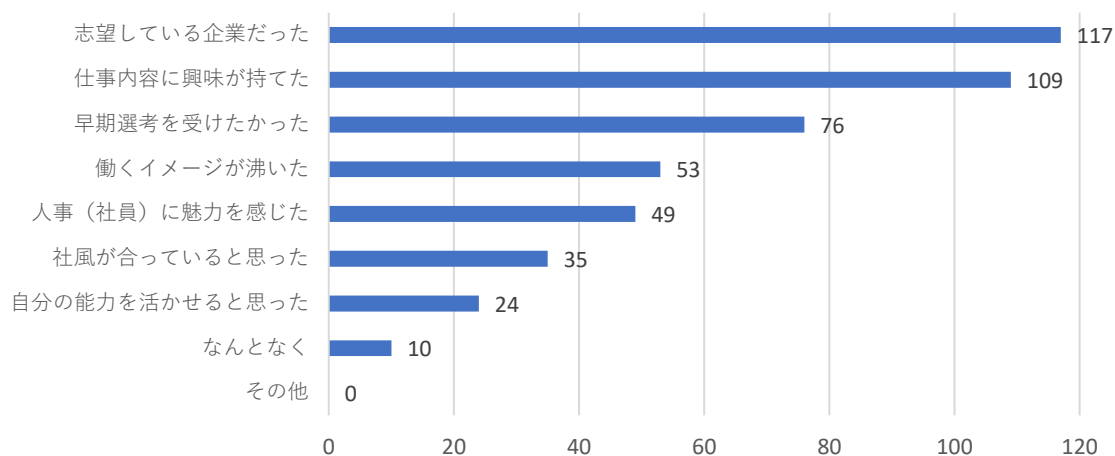
○本選考に進んだ理由について

ここではイメージのつきやすい1番目の理由ではなく、2番目と3番目が多い理由に注目したい。2番目に多い【仕事内容に興味を持てた】という回答から、インターンシップを通じて具体的な仕事内容を学生に知ってほしいという企業側の狙いは、奏功していると考えられる。また、3番目に多い【早期選考を受けたかった】という回答からは、『早期選考』という言葉の持つ意味合いが、体育会学生にも浸透してきているとも見てとれる。

体育会学生の中には、部活動を理由に早期の就職活動終了を望む学生が毎年一定数存在する。以上の理由を鑑みるに、今後体育会学生の採用を検討される企業は『早期選考』を切り口とし、より実務や組織を肌で感じるができる緻密な仕掛けを講じていくことが有効であると考えられる。

インターンシップから本選考に進んだ理由

※3つまで選択可



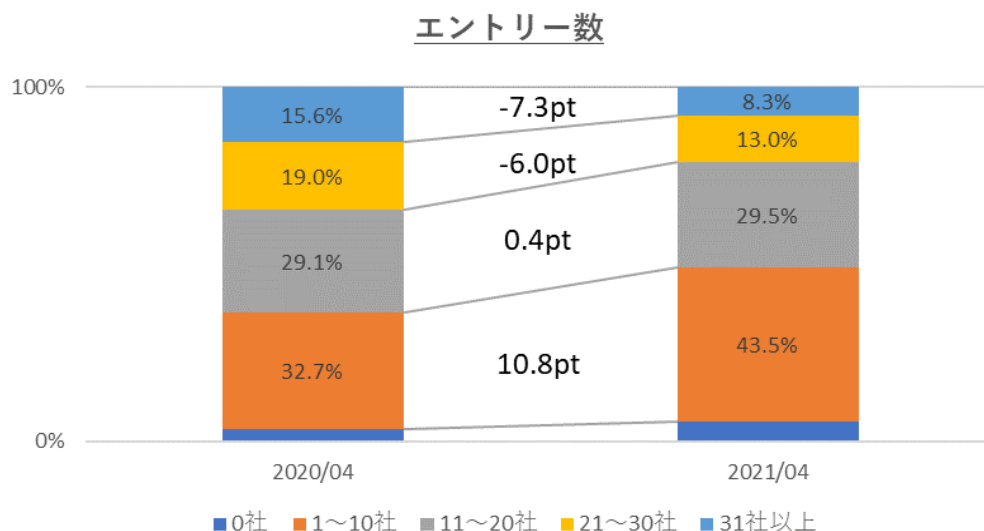
【全体/n=473】

図 8

◆エントリー状況について

○エントリー状況について

2021/04のデータのみで見ると【1~10社】の割合が最も多く、また昨年の同時期データと比較すると増加した割合も【1~10社】が最も多かった。コロナ渦とは言え、学生のエントリー数が大幅に伸びているということはなく、むしろ20社以上エントリーしていた学生の割合は減っていることが分かる。

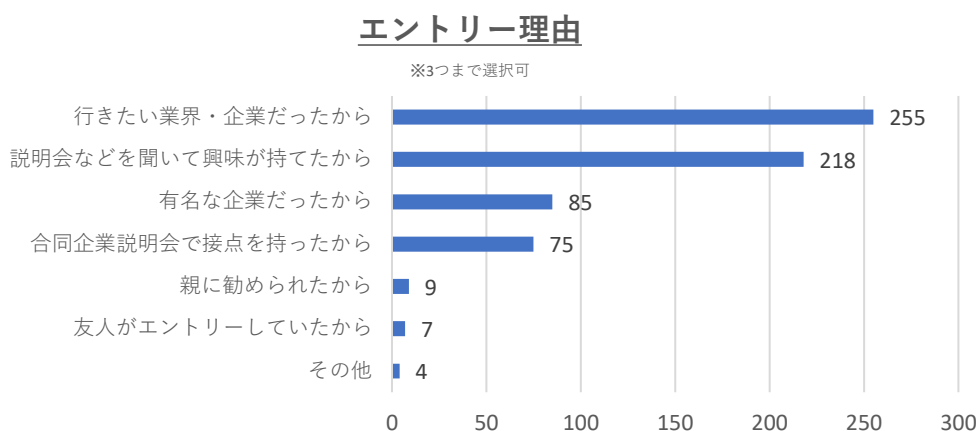


【全体/n = 315】

図 9

○エントリー理由について

2番目に多い【説明会などを聞いて興味を持てたから】と、3番目に多い【有名な企業だったから】の数値を比較すると3倍弱の差があることもあり、知名度を理由にエントリーする学生ばかりではないことが見てとれる。つまり、元々知らなかった企業であっても説明会などで魅力付けができればエントリーに繋がることが分かる。企業はどのように魅力付けをするのが最重要になってくる。



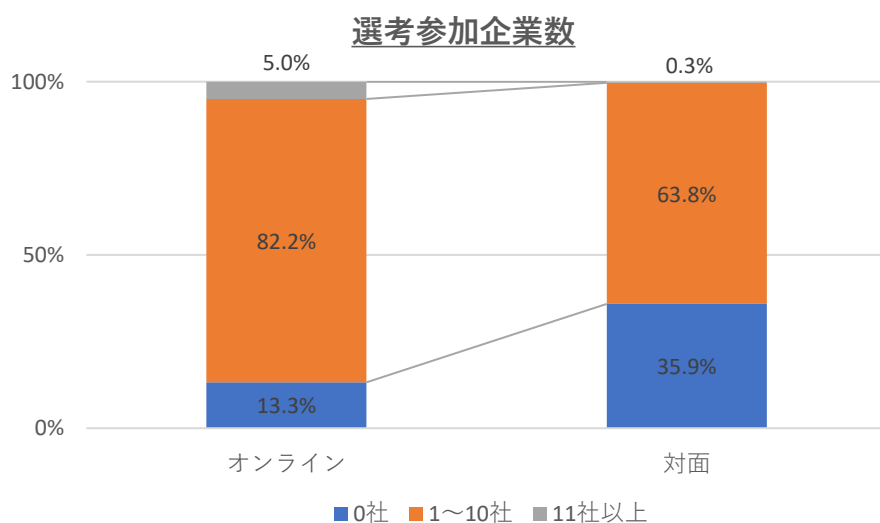
【全体/n = 653】

図 10

◆選考状況について

○選考参加企業数について

インターンシップと同様、選考についてもオンライン形式で多く実施されていることがわかる。また、10社以上受けている学生が少なく、学生の選考経験値が低いことが予測される。原因としては、エントリー数が足りていない、もしくは何らかの理由で選考自体が止まってしまっている可能性がある。また、コロナ禍で選考に対する企業のパワーが減少していることも予測され、面接に進む前の書類選考などの選考通過率が下がっている可能性もある。



【全体/ n = 315】

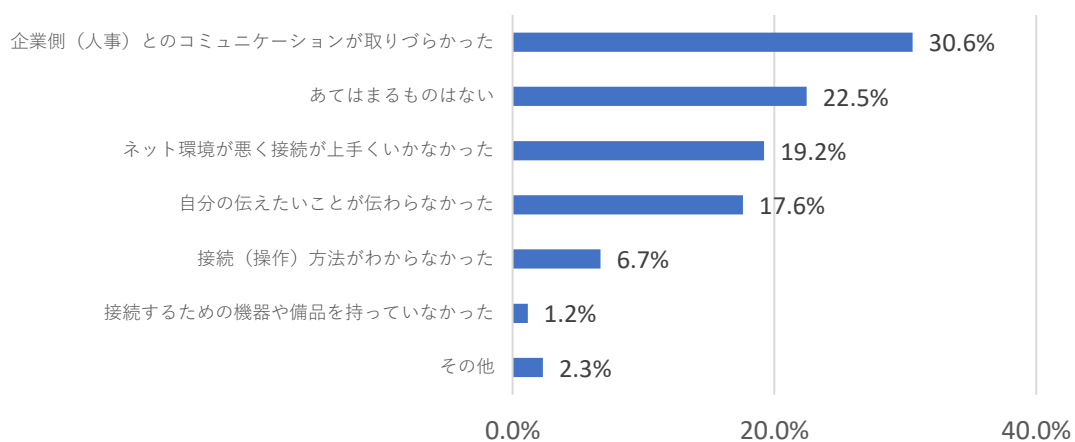
図 11

○オンライン選考で困ったことについて

最も多かったのが【企業側（人事）とのコミュニケーションが取りづらかった】という回答で全体の30.6%を占めた。また、2番目に多い【あてはまるものはない】と回答した学生も全体の22.5%を占め、昨年に比べると授業などでオンラインを使った『人との接点』に抵抗感や不明点が減ってきていることがわかる。【その他】の回答に「画角の調整」や『背景の』設定など見栄えを気にする学生の声も見られた。

オンライン選考で困ったこと

※複数選択可



【全体/ n = 432】

図 12

◆内定状況について

○内定保有数について

内定保有について体育会学生と一般学生と比較すると、ほとんど差がないことが分かった。例年、体育会学生の中には就職活動に割く時間に限りがあり、行動量が他の学生に比べると少ない学生が一定数いる。しかし、今回の結果から内定取得率だけを見ると、新型コロナウイルスの影響で部活動が実施できずその時間を就職活動に割くことができるようになった学生もいることが予測される。

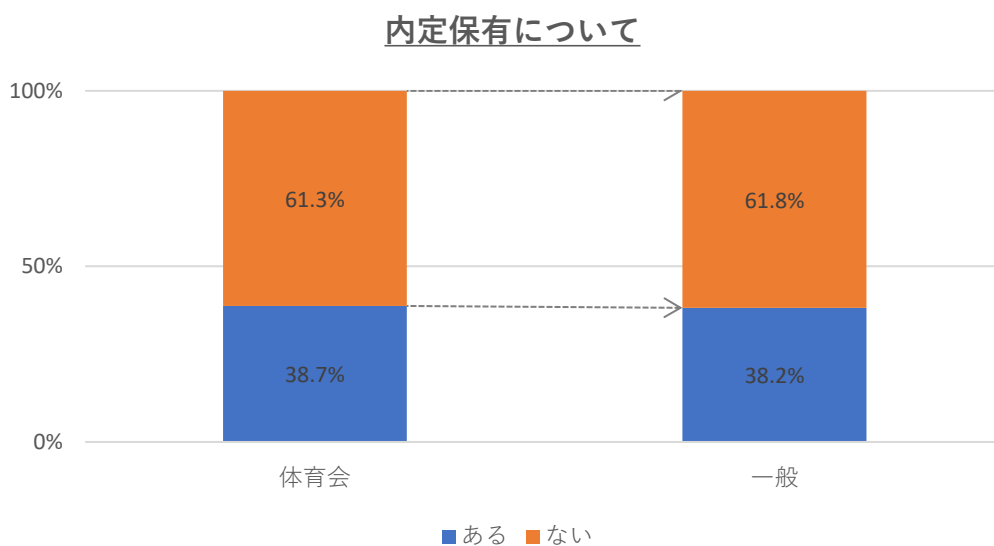


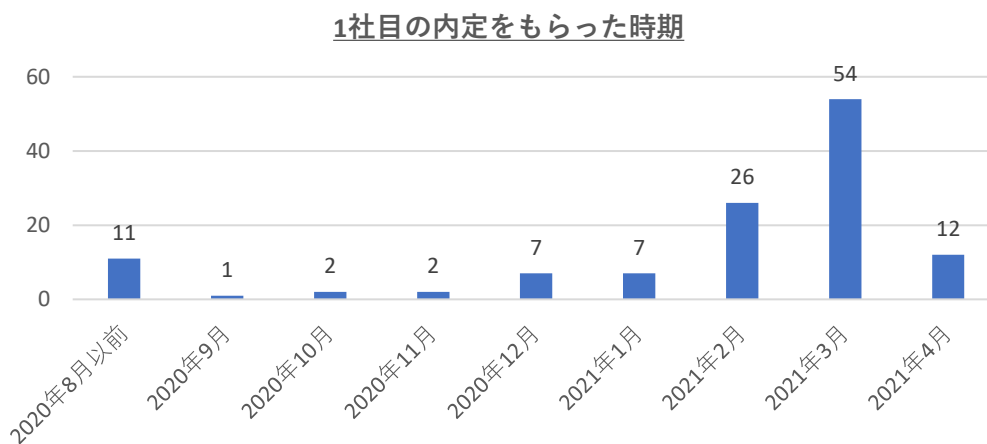
図 13

学生調査, <速報>4月1日時点の内定率は38.2%～キャリアス就活 2022 学生モニター調査 (2021年4月)

https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/202104_gakuseichosa_soku.pdf

○内定をもらった時期について

内定をもらった時期については2月から増加傾向にあり、4月の数値に関しては調査が月初であった為、これ以上に数値が伸びていることが予測される。



【全体/ n = 122】

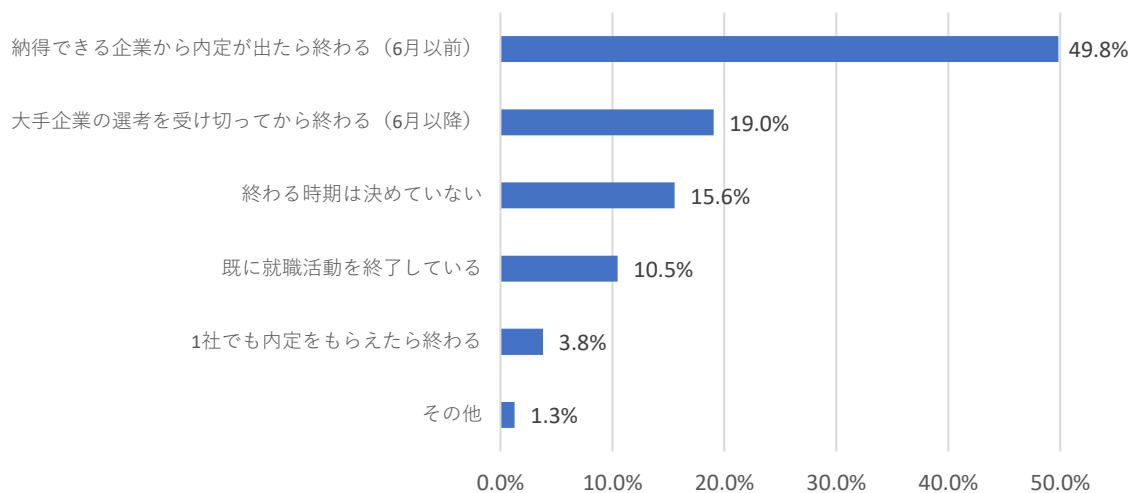
図 14

○就職活動終了時期について

最も多かったのは【納得できる企業から内定が出たら終わる（6月以前）】で、2位とは30.8ポイントの差をつけた。

今年も就職活動の早期化が見込まれているが、スタート時期だけではなく就職活動を終了する時期も早まっていくことが予想される。大手企業の内定を待たず就職活動を終了する学生が増えていく事で、中小企業に内定承諾する学生の層も今までとは変わってくる可能性もある。

就職活動終了時期について



【全体/ n = 315】

図 15

◆就職活動の状況について

○志望業界について

昨年の同月と比較すると、順位の入替わりは見られるものの上位 7 業界に変化はない。昨年、1 番人気のあった【不動産】や【金融】業界に代わり、【食品・飲料】業界が 1 位となった。また、新型コロナウイルスの影響により下記の増減傾向がみられる。

〈増加傾向上位 5 業界〉

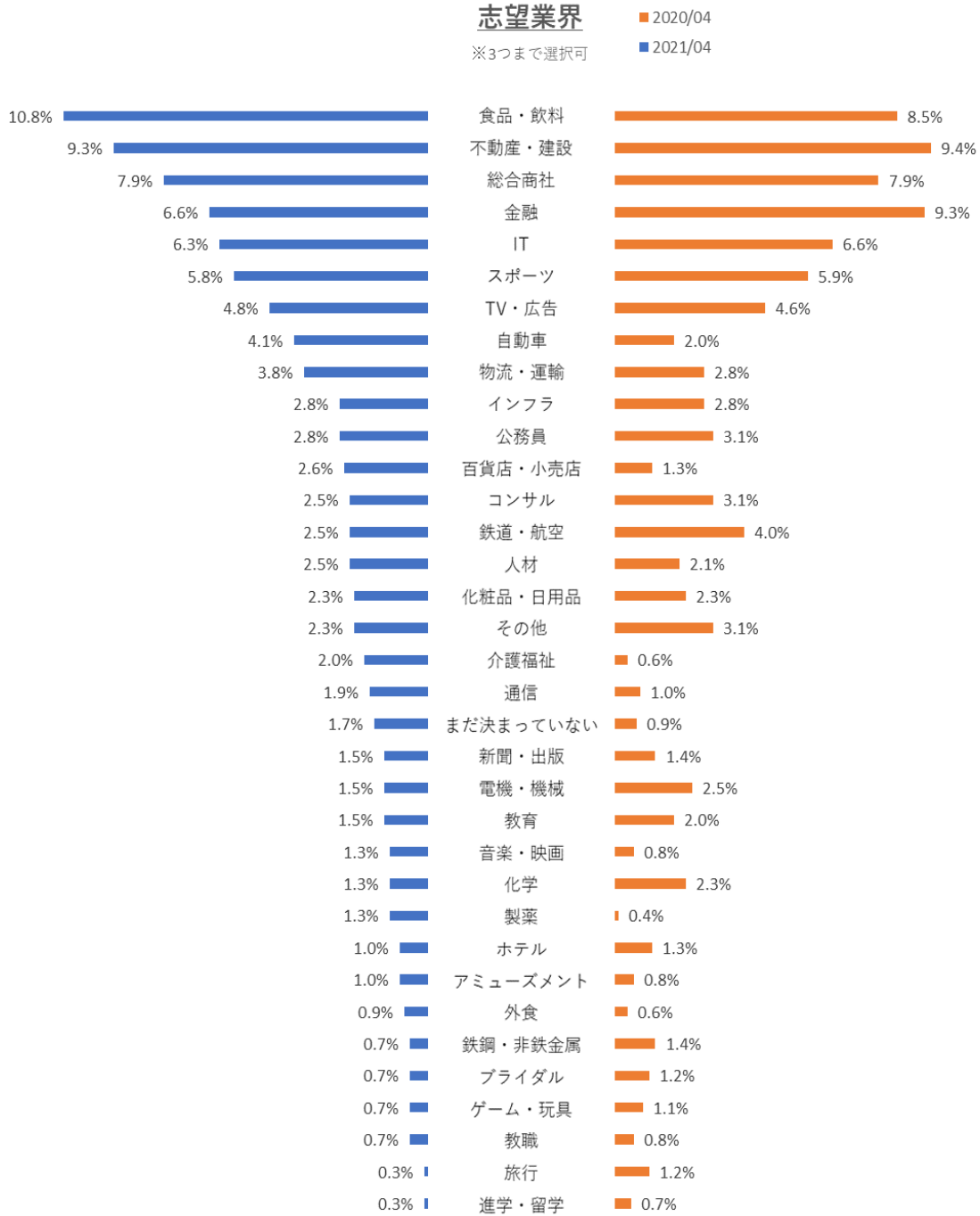
食品・飲料、自動車、介護福祉、百貨店・小売店、製薬

〈減少傾向上位 5 業界〉

金融、鉄道・航空、電機・機械、化学、旅行

志望業界

※3つまで選択可



【2021：全体/n = 686】

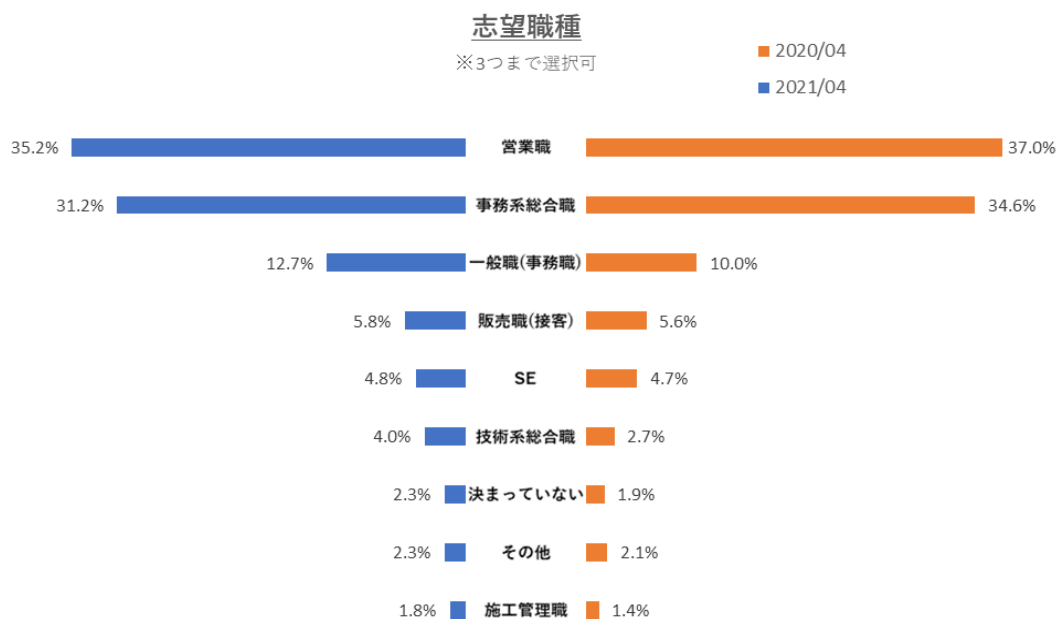
【2020：全体/n = 1124】

図 16

○志望職種について

昨年のデータと比較しても、人気職種の順位に変化は見られなかった。【営業職】と【事務系総合職】は減少傾向にはあるが、全体の3割以上を占める結果となった。体育会学生の多くは総合職で就職を志望していることが分かる。

また、若干伸びたのが【一般職（事務職）】で12.7%という結果となった。



【2021：全体/n = 315】

【2020：全体/n = 505】

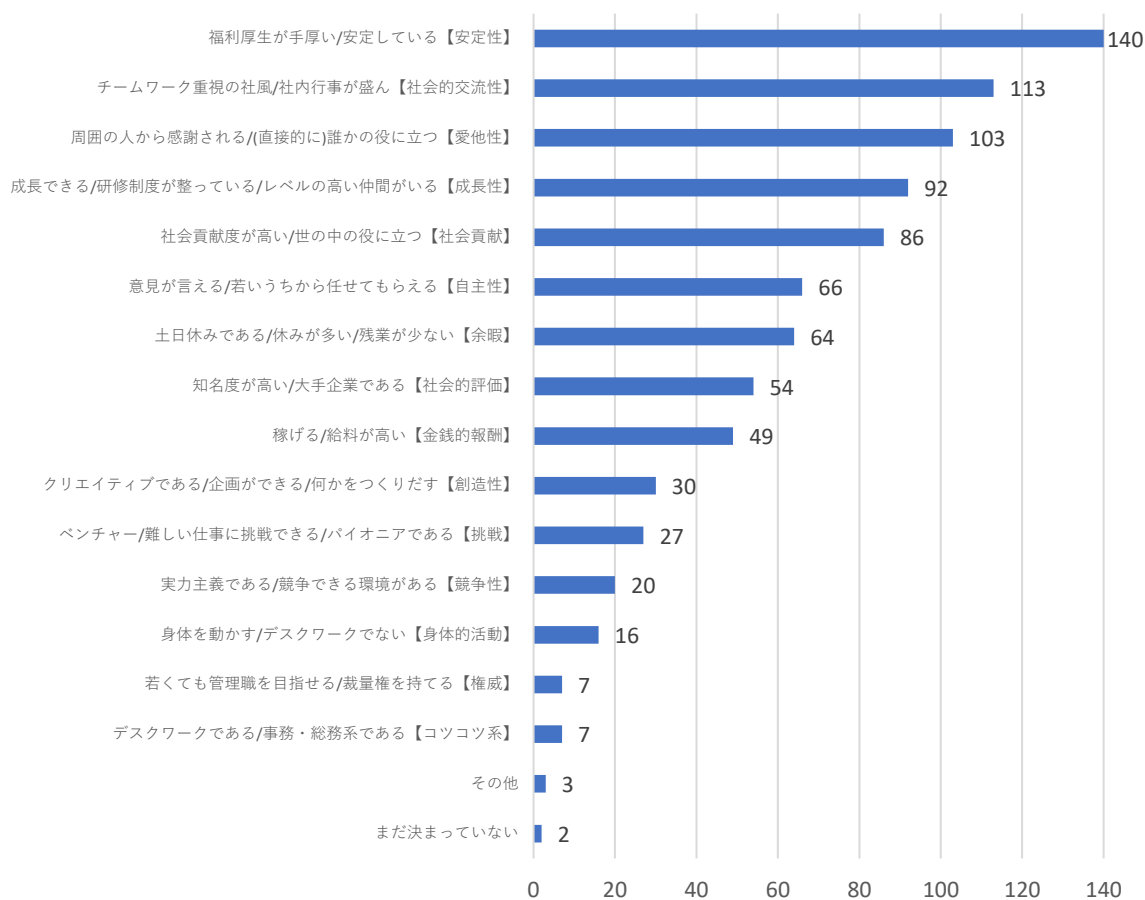
図 17

○企業選びの軸について

最も多かったのは【福利厚生が手厚い/安定している（安定性）】であった。また、3番目に多い【周囲の人から感謝される/(直接的に)誰かの役に立つ（愛他性）】と5番目に多い【社会貢献度が高い/世の中の役に立つ（社会貢献）】が多い理由としては、新型コロナウイルスの影響を受け学生たちも何らかの形で世の中の役に立ちたいと思う傾向が強まっているからではないだろうか。

企業選びの軸

※3つまで選択可



【全体/ n = 879】

図 18

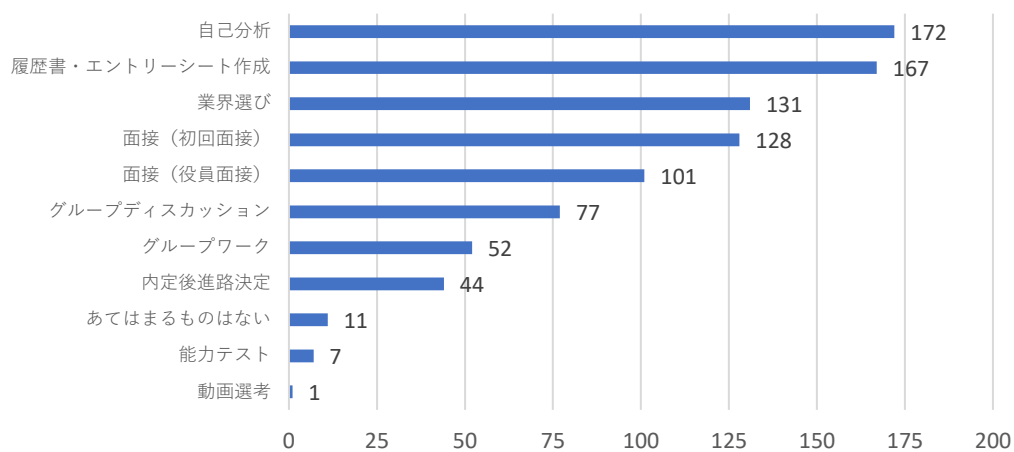
○就職活動を進める上で困ったこと

困ったことで最も多かったのは【自己分析】で172票を集めた。315名に取っているアンケート結果の為、半数以上がこの項目を選択していることが分かる。2番目に多い【履歴書・エントリーシート作成】も同様である。

コロナ禍で人と会うことが難しかった時期に、自身で自己分析や書類作成を行うことは学生にとっては難易度が高いと思われる。企業側はインターンシップなどを通して【自己分析】や【履歴書・エントリーシート作成】に繋がるコンテンツを設けると学生との接点を広げるチャンスに繋がるかもしれない。

就職活動をやってみて困ったこと

※複数選択可



【全体/ n=891】

図 19